

会 議 録

全部記録 要点記録

1 会議名	令和2年度 第1回ひめじ創生戦略会議
2 開催日時	令和2年6月2日(火) 14時00分～15時20分
3 開催場所	姫路市役所北別館4階 403会議室
4 出席者又は欠席者名	ひめじ創生戦略会議委員13人、事務局
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可 傍聴人(2人)
6 議題又は案件及び結論等	<ol style="list-style-type: none">1 開会2 委員紹介3 会長、副会長選任4 議事<ol style="list-style-type: none">(1) 2019年度ひめじ創生戦略の数値目標について(2) 地方創生交付金対象事業等の実施結果について5 その他6 閉会
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

<p>市長</p>	<p>1 開会（14:00）</p> <p>挨拶</p> <p>2 委員紹介（14:05）</p> <p>新たに就任された委員の紹介</p> <p>3 会長、副会長選任（14:08）</p> <p>4 議事</p>
<p>事務局</p>	<p>【説明】</p> <p>（1）2019年度ひめじ創生戦略の数値目標について</p> <p>（2）地方創生交付金対象事業等の実施結果について</p>
<p>会長</p>	<p>事務局からの説明に関してご質問、ご意見があれば発言をお願いしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>資料を拝見して、観光の面ではコロナの影響が表に出てきていることが分かったが、雇用環境の面では倒産件数を含め、どれくらい状況を把握しているか。報告としてはしっかり行っていただいているが、2020年度はやはり前提条件から変わってくる状況だと思われるので、そのあたりの把握状況をお聞かせいただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>産業局所管のため、現在手元に詳しい数字はないが、経済振興対策会議においては商工会議所とも意見交換を行っている。同所が実施した緊急アンケートの結果により、リーマンショック以上の厳しい現状であると把握しているところ。</p>
<p>委員</p>	<p>商工会議所が行ったアンケートによれば、4月5月と月を経るごとに状</p>

<p>委員</p>	<p>況が悪くなっている。現在は全業種全規模にわたって状況が悪化しているが、特に飲食・宿泊への影響は深刻。メーカーに聞くと、6月以降さらに受注の関係が悪化するとのこと。</p> <p>現時点での詳細な数値把握は難しいが、向こう1～2年は海外からのインバウンドも期待できない。また、製造業を中心に今後影響が出てくると考えられる。このことを踏まえると、創生戦略のKPIをどのように考えていくかということも非常に大きな課題であると思う。</p> <p>来年の新規採用に関しては、すでに「大手企業において採用数を0にすることが決定された」等の報道がある一方、7月に当地域で開催を予定している求人企業合同説明会への参加企業数は依然として多い。こういう時だからこそ中小企業が積極的に採用に乗り出している印象。昨年一昨年までは非常に人手不足で、求人を出しても人が来ないということを聞いていたが、その時からは状況が一転しているように感じる。</p>
<p>委員</p>	<p>2019年度の数値目標達成状況を見ると、良いところも悪いところもあるという印象だが、特に1～3月でマイナスが大きい面、影響が大きい箇所はあるか。</p> <p>また、将来の方向として、今後半年1年先まで見据えた対応が必要だと思うが、数値目標についてはデータの取り方も含めて目標値を変えていくべきではないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>観光の面においては、姫路城への来城者数など、1月2月は例年を上回るペースであったが、3月になって一気に数字が下がった。基本目標2の数値については、年度の後半でマイナスが大きくなったところが多い。</p> <p>また、数値目標については、比較的高水準で推移していた時期に目標値を設定していたこともあるため、今回のコロナの影響等も考慮すると見直しの可能性はあるかと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>この目標値は2021年度からはどうなるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>このアクションプランは本来2019年度で終了予定であったが、姫路市の</p>

<p>会長</p>	<p>新たな総合計画に同プランを盛り込むこととした。新総合計画の改定に合わせて、2020年度までのプランに延長させていただいたところである。</p> <p>2020年度は多くの項目がコロナの影響を受けると予想されるので、達成状況については2019年度までで判断し、2020年度は特殊事情があるのでどう考えていくかということを検討していく必要があるように思う。</p>
<p>委員</p>	<p>雇用の関係で1点確認だが、製造業の従業者数には正規も非正規も含まれているのか。正規の数が増えている、非正規の数が増えているなどの内訳が分かるようなら教えていただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>データは工業統計調査のものなので、正規非正規の詳しい内訳は把握しておらず、全体の数字として掲載している。</p>
<p>会長</p>	<p>コロナによる幼児教育への影響はどのようなようであるか。</p>
<p>委員</p>	<p>特別保育の間は、医療従事者等、社会を支えていらっしゃる家庭のお子さんをお預かりしていたが、やはり園には子どもの声がないと寂しい感じ。期間中は職員もネットを通じて子どもたちに呼びかけたり、動画を配信したりして、少しでも成長の一助になればと努めてきた。</p> <p>別件になるが、姫路においては小・中学生の不登校が多いと聞いている。コロナ終息後もこうした子どもたちにも学びの保障を継続していくことが、質の高い暮らしや播磨の魅力発信につながるのではないかと。</p>
<p>会長</p>	<p>手厚い教育環境が、まちの活性化、人の集まりにつながってくると思うので、そのあたりの推進についてもお願いしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>評価においては「こういうことをやったから、結果がこうだった」という視点が必要。例えば、製造品出荷額等の全国シェアを見ると、全国的に増加傾向であったからシェアが落ちた、との説明があるが、それだけではなく、姫路においてはどういうところで出荷額が増えたというあたりの数字が必要。そこまで分析しないとなかなか評価がしづらい部分がある。</p>

<p>委員</p>	<p>交付金の方でも、イオンさんからの寄附金というのは非常にありがたいお話だが、サムライガーの環境啓発活動により外国人観光客が増えているというのは少し無理がある。</p> <p>こういった因果関係についてはしっかりと整理をして、どのような事業をどのようにやっていくかというところはもう少し戦略的に進めていく方が良いと思う。</p> <p>数値目標の立て方について2点。</p> <p>1点目は「工業用地ライブラリー制度の登録件数」について、ライブラリー登録の前に売買が成立しているとの説明があるが、こういった現状であれば登録自体への需要がなくなっているのではないかと。そうであれば、この項目を数値目標として掲げ続けることには少し疑問がある。</p> <p>また、「空き家バンクの登録件数」については、順当に推移しているとのことだが、空き家が増えていることが順調な推移といえるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>空き家バンクについてはご指摘のとおりである。成立状況のようなものをPDCAで考えていくということであれば、そういった視点が必要。ただ目標自体はこれまでの会議で決めたことなので、過去の経緯も含めて検討していきたい。</p> <p>ライブラリーについては、工業団地として事前の売買が増えていた時期もあった。良い土地を事前登録していただくことで、姫路に注目していただく1つの材料になればとの理由で指標の1つに挙げていると思うが、現状を踏まえて適切な指標か否かを検討していきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>数値目標総括表では、「計画よりも遅延している」という数が多くなっているが、コロナの影響か。</p>
<p>事務局</p>	<p>観光が主になる部分はコロナの影響が出てきている。</p> <p>出生率の低下や東京圏への転出超過等については慢性的な課題である。</p>
<p>委員</p>	<p>兵庫県では待機児童の数が多いとのデータをよく目にする。</p> <p>コロナの影響を受け、銀行でも現在スプリット制度が採用されているが、</p>

	<p>子育て世代には負担の多い勤務体制となっている。待機児童を減らすことや保育体制をしっかりと整えるということが47万人の人口維持にもつながると思う。特に若い世代の女性の流出が多いと記載されているので、そのあたりの拡充にも力をいれていただければありがたい。</p>
事務局	<p>今年度から「こども未来局」を新設した。待機児童の解消や子育て世代への支援というところは、今回のコロナでも大きくクローズアップされた点なので、各局とも協議して進めてまいりたい。</p>
委員	<p>待機児童が多いからといって必ずしも悪いわけではない。収容人数がこれだけ増えて、新たに預けたいという家庭がこれだけ増えたという両方の把握が必要。</p>
委員	<p>待機児童もそうだが、今回学童も相当コロナの影響を受けていた。国の指針では小学3年生までとなっているが、親の立場からすると3年生と4年生で何が変わるのか、1人で留守番させられるのかという課題がある。姫路は小学6年生まで預かりますというくらいしていただけると有難い。</p>
委員	<p>兵庫県全体でも2019年で7,200人ほど転出超過しており、全国的にもワースト4。出生率の低下などに対しては「こども未来局」の新設により対策されているように見られるが、転出超過に対しても何か新しい試みがあるのか。</p>
事務局	<p>転出超過のうち学生というのが大きな要因になっているが、姫路においては一度市外へ出てしまった若い世代に戻ってきていただけるような施策を展開していきたいと考えている。</p>
委員	<p>自分の子どもたちに「姫路に戻ってくる気があるか」と聞いてもその気はないと答える。その理由は、姫路のまち自体に刺激が少ないという点や帰ってきて就職先が少ない点とのこと。若者に姫路に残ってもらうためには、姫路のいいところや住みやすいところなどもっと積極的に魅力を発信していくことが必要だと思う。</p>

副会長	<p>これから1～2年間、海外からのインバウンドを見込めない中で、観光産業をどのように考えていくか。インバウンドがないから仕方がないという姿勢ではなく、3密にも配慮しながら、圏域の方々に来ていただける魅力的なイベントを企画できれば、地域の活性化につながるのではないかと。</p>
委員	<p>コロナにより多くの弊害もあったが、働き方や他者とのかかわり方、親子の向き合い方など日々の暮らしについて再考できる期間でもあった。行政にも机上の資料だけでは物事が前に進まないということを考え直していただきたい。</p> <p>私は、姫路を愛する子どもを育てることが親の責任と考えている。そのとき自分ができる子育てをすれば、子どもが成人したときにやっぱり親元に帰ってきてくれると思う。</p> <p>指標に関しては、基本目標5の「地域活動に対する支援(地域防災訓練)」について1点申し上げたい。自主防災の訓練と資機材の交付は同じことではない。資機材の費用を負担したから役割を果たしたというのではなく、各自治会にいる市職員や消防職員などもっと行政が関わっていくことで、自主防災会の訓練ももっと活発になると思う。</p>
委員	<p>確かに、保育園で保護者にアンケートを取った際にも、親子で向き合える時間を多く持てたという意見が多くあった。子どもたちには今回のことを「生きる力」に変えて強く成長してほしいし、そういう教育の場を作っていきたい。コロナ期間中子育てに苦労されるご家庭も多かったが、そういった家庭の子どもの行き場所、安全な場所を作る必要があると痛感した。</p>
会長	<p>今回のコロナで価値を見直す、考え方を改めるという機会が増えた。これからは社会の流れや世界観が随分変わってくると思う。特に大きいのはテレワークの流れ。そういう流れの中で、姫路市がいかにか先取りして新しい都市のモデルを作っていくかというのが非常に重要。</p> <p>数値目標については、2020年度はあまり参考にならないように思うので、もっと違う視点から色々のご検討いただければと思う。</p>

	<p>5 その他</p> <p>※連絡事項</p> <p>6 閉会（15:20）</p>
--	--